

平成 2 1 年蔵王町議会定例会 3 月会議が開催されるにあたり、ご審議いただきます平成 2 1 年度蔵王町一般会計当初予算のほか、各議案の説明に先立ち、私の町政運営に対する基本的な考え方を申し述べ、議員の皆様方を始め、町民の皆様により一層のご理解とご協力をお願い申し上げる次第であります。

私は町長に再び当選させていただきましてから、はじめての当初予算を編成し審議を賜る定例会 3 月会議を迎えることとなりました。

また、本年 1 月から議会改革の一環として、「通年議会」となり、私にとっても議員の皆様におかれましても、本格的審議や議論に入ろうとしている議会でもあり、大変緊張しておりますと同時に、町政を預かる者として、その責任の重大さを

再認識しているところであります。

所信表明でも申し上げましたが、改めて初心にかえり、町民の皆様の負託に応えて行こうと決意を新たにしているところであります。

議会の皆様のご理解とご協力、そして温かいご支援をいただき、町政が順調に執行されますことを切にお願いいたします。

さて、昨今、我が国がおかれた現状をみると、米国の金融危機に端を発した景気の低迷は、世界的な規模に波及し、私達の地域を取り巻く社会経済環境も、一層の厳しさを増しております。各企業における派遣社員など非正規労働者の解雇をはじめ、地方分権・行財政改革・町村合併等の対応など、地方自治を取り巻く環境は、

かつてない程大きな転換期にあると思われれます。

いわゆる「平成の大合併」のもと平成11年4月から平成21年1月までの間に全国2,558あった町村は、昨年から更に17減少し998と実に61%も減少したことになります。

宮城県においては、10市59町2村の71市町村から13市22町1村の36市町村に半減して、本年9月には、更に1町が減少することになっております。

これらのことから、地方の財政はかつてない逼迫した状態に直面しており、昨年も申し上げましたが、「あれも、これも」の豊かな時代から限られた財源を有効に活用するため「あれか、これか」の選択の時代を迎えております。

また、国の総人口の減少というかつて経験した

ことのない時代に直面しており、加えて少子高齢化社会が急激に進展しようとしています。こうした社会構造の大きな変化の中、社会保障・年金・医療・介護、そして特に納税者の減少など多くの課題への対応が必要となっております。

我が町も同様に、米価や観光客の低迷、商店などにおける個人消費の伸び悩みなどに加え、昨年、原油価格の急激な高騰により、主幹産業の農業や観光等が大きな影響を受けたことは、いまだ記憶に新しいことであります。

経済成長の下落は個人収入の減に直接影響を及ぼし、可処分所得の減少により、個人消費の伸びは期待されないと危惧されます。

国や宮城県の財政状況も非常に厳しく、国や県からの負担金・補助金の削減・廃止がされる中で、

町の自立のために自らの道を切り開き、出来る限り歳出を削減し、歳入を確保しなければなりません。財政運営環境は依然として厳しい状況にあります。

国会の審議は依然として混迷の様相を呈している様に思われますが、現在、国の第2次補正である「定額給付金及び子育て応援特別手当事業」、「地域活性化・生活対策事業」の総額3億4,700万円については、平成20年度補正予算に計上して事業の推進を図っていきませんが、国会の情勢を見ながら事業の繰越を予定しているところです。

また、「ふるさと雇用再生特別基金事業」及び「緊急雇用創出事業」については、事業規模が確定次第、平成21年度の早い時期に補正予算にて

事業の推進に対処して参ります。

毎年申し上げておりますが、このような状況において、課題は山積してはいますが、私は行政の使命は、この町が「誰もが住んで良かった」と言えるような、安全と安心そして心豊かに暮らせる、健全で活力ある地域社会を町民の皆様と共に歩み、共に汗を流し、「町民協働のまちづくり」をめざしていくことにあると思っております。

我が町は合併をしないで「単独のまちづくり」を決定し、特別職の給料カットや職員数の削減、そして町民の皆様にも痛みを伴う改革をさせていただきました。

昨年、「行政改革推進室」は廃止しましたが、引き続き行財政の改革は継続して参ります。

今後も、負担金・補助金の削減・廃止、また

国民健康保険や後期高齢者医療、そして介護保険における社会保障費の増大により、これら特別会計への繰出金の増加が今後も予想されています。

また、平成18年に策定した財政計画の想定に無かった公立刈田総合病院の「赤字補てん」の問題など我が町の健全財政に少なからず影響を与えております。

しかしながら、町民の安全・安心を守り、二次医療・緊急医療の中核的病院を維持し、存続させ守って行くことは重要なことと思っています。

病院の副管理者として、経営の健全化に努めていく責任を痛感しているところであります。

財政を立て直し、健全化していくということは、非常に重要なことで町民の皆様には、負担が増え

たことなどが実感されることが多いと思われ
ますが、少子高齢化社会における介護・疾病予防
など福祉の増進や、生まれてくる子どもが少なく
なって、将来の蔵王町が心配される中で、安心し
て子育ての出来る環境づくり、子ども達の安全の
確保と今まで以上に子育て支援の充実を図って
いかなければなりません。

町の総人口は、昨年1月末と比較しても97名
の減（13,406人）で、引き続き減少傾向に
あり、町全体の活性化に大きな影響を与えかねな
い事態になっています。

しかしながら、昨年の出生数は108人と一昨
年より21人増加に転じたことは、これまでの
施策によって僅かではありますが、徐々に明るい
展望が開けつつあるものと思っています。

私が町長就任以来申し上げて参りました、「開かれた町政を目指す行財政改革の推進」、「活力ある蔵王の産業作りと観光の充実」、「生活環境の充実」、「蔵王の自然と共生する教育の充実」、「子育て支援と高齢者が共存できる町づくり」を五本の柱として、皆様と共に歩んでいこうと思っておりますので、どうか、町民の皆様並びに議員の皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

そして、英断をもって町政を進めていけば必ずや未来が開けてくるものと信じております。

さて、平成21年度の当初予算編成に当たりましては、厳しい財政運営を迫られる中で、限られた財源をより効果的に執行するため、その基本的な考え方をご説明申し上げます。

今回も、主要事業を別紙のとおり一覧表として添付させていただきました。

歳入面におきましては、町税の固定資産税では3年毎の評価替えの年度にあたり、地価の下落などにより前年度対比5.0%減、自動車取得税交付金は現在の内需の状況を考慮し、26.9%の減、地方交付税は前年実績を基に3.9%、6,000万円の増、町債については地方財政計画における臨時財政対策債の伸び率55.3%を下回る52.0%を見込み、平成21年度予算の総額では新規事業を含めまして、1.9%、9,000万円増の49億1,000万円としたところです。

次に、歳出予算における主な事業について、ご説明申し上げます。

環境の悪化を防ぐと共に、豊かな環境を次世代に引き継ぐことを町民の皆様と一緒に「環境保全の町」を宣言するのに合わせ、立て看板の設置などを進めていきます。

子育て支援事業として、子ども医療費の助成は小学校6年生までの無料化を継続することや条例の一部改正が必要となりますが、すこやか養育助成金を30万円から50万円に増額して、更なる支援をしていきたいと考えております。また、妊婦健診公費助成の回数も現在の5回から14回に増やし、その全額を助成します。

農業・観光面では「円田２期地区ほ場整備事業」や「園芸特産重点強化整備事業」を継続し、平成２２年５月１６日に予定しております、（仮称）ツール・ド・蔵王の自転車レースをきっかけにエコ・スポーツの開催で「環境モデル地域」と「みやぎ蔵王」の観光アピールに向けて準備を進めて参ります。

災害対策では、局地的豪雨災害などいつ起こるか分からない災害に備え、消防力の強化や自主防災組織の支援を図り、安全・安心のまちづくりを目指します。

また、「永野山の入平沢線」の幹線町道整備事業は平成２３年度完成を目指し、継続して事業の推進を図っていきます。

学校教育面では、昨年度に引き続き「特別支援

員」1名を増員し、7名体制により小・中学校の発達障害に対する支援を行って参ります。

学校給食の賄材料費は、値上がりにより前年度対比5%程増加しておりますが、児童・生徒の給食費保護者負担金は据え置きとするため、一般財源を約380万円投入して対処して参ります。

また、年々発生確率の高くなる「宮城県沖地震」に備えを万全にするため、本年度で小・中学校の耐震補強工事を全て完了させます。

最後に、将来における町債償還が過度の負担とならないように、本年度も計画的に減債基金に積み立てると共に適宜、繰り上げ償還を行っていきます。

以上、平成21年度を迎えるにあたりまして、私は英断をもって、町政運営に取り組んで参りたいと考えております。

どうか、町民の皆様並びに議員の皆様のより一層のご理解・ご協力、そしてご支援を心からお願い申し上げます、平成21年度の施政方針といたします。